

生命アクサ
東日本大震災から14年
復興支援寄付キャンペーンを継続

アクサ生命は3月11日、東日本大震災からの復興を支援する「復興支援寄付キャンペーン『みらいをつくる』」の2025年度の継続を決定し、発表した。同社は14年にユネスコ協会と創設した全国の自然災害に備えるための教育に取り組

組む小・中・高等学校、特別支援学校を対象にした「アクサユネスコ協会減災教育プログラム」を通じたサポートを継続しているほか、昨年には宮城県・岩手県・福島県の中学3年生の高校進学支援のために創設した「ユネスコ協会就学支援奨学金」を「災害子ども教育支援」として発展させ、対象地域を全国に拡大したほか、能登半島地震で被災した中学1年生から中学3年生にも奨学金の支給を行っている。

同社は東日本大震災発災の翌月に、被災地支援を目的に、1件の新契約につき1ユーロ相当の寄付金を会社が拠出する「復興支援1件1ユーロ寄付キャンペーン」を開

始。毎年経営陣が被災地を訪問し、その時々ニーズを理解しながら各種支援を継続している。これまで5億300万円を寄付し（25年2月末現在）、財団法人日本ユネスコ協会連盟が実施する「アクサユネスコ協会減災教育プログラム」と「災害子ども教育支援」の運営資金に充てられている。

同社は引き続き同支援制度への寄付を通して、被災地の教育復興支援を行う。この「復興支援1件1ユーロ寄付キャンペーン」を含む11年から現在までの14年間に拠出した支援総額は、7億7700万円に上る（25年2月末時点）。